

令和4(2022)年度 病害虫発生予報 第12号

令和5(2023)年3月17日
栃木県農業環境指導センター

気温の上昇に伴う病害虫の発生増加に注意しましょう。

予想期間 3月下旬～4月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご 灰色かび病

- 発生予想 ・発生量：**やや多い**
- 根 拠 ・現在の発生量は平年並(平年比61%：ほ場率、平年比67%：株率)。(±)
・向こう1か月の降水量は多く、日照時間は少ない見込み。(+)
- 対 策 ・多湿条件において発生しやすいので、下葉を除去し株元や花房の風通しをよくするとともに、かん水過多にならないように注意する。
・発病した果実や果梗等は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で処分する。
・発生初期に、フルピカフロアブル(RACコードF:9)等を散布する。
- 備 考 ・[灰色かび病薬剤感受性結果①](#)、[②](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

2 いちご アブラムシ類

- 発生予想 ・発生量：**多い**
- 根 拠 ・現在の発生量はやや多い(平年比164%：ほ場率、平年比191%：株率)。(±～+)
・向こう1か月の平均気温は高く、日照時間は少ない見込み。(±～+)
- 対 策 ・発生が見られる場合は、ベネビアOD(I:28)等を散布する。
・ほ場内外の雑草は増殖源となるので、除草する。

3 いちご アザミウマ類

- 発生予想 ・発生量：**平年並**
- 根 拠 ・現在の発生量はやや少ない(平年比44%：ほ場率、平年比47%：株率)。(～±)
・向こう1か月の平均気温は高く、日照時間は少ない見込み。(±～+)
- 対 策 ・低密度のうちにベネビアOD(I:28)等を散布する。
・花を良く観察して、観察した花の1割以上にアザミウマ類の寄生が見られる場合は、被害が大きくなる可能性があるため、速やかにディアナSC(I:5)等を散布する。なお、本剤はカブリダニ等の天敵に影響があるため注意する。
- 備 考 ・[防除のポイントNo.19](#)、[アザミウマ類感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターHPに掲載中。

4 トマト 灰色かび病

- 発生予想 ・発生量：**平年並**
- 根 拠 ・現在の発生量はやや少ない(平年比46%：ほ場率、平年比35%：株率)。(～±)
・向こう1か月の降水量は多く、日照時間は少ない見込み。(+)
- 対 策 ・施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を用いた通風により、施設内の湿度低下に努める。
・発病葉、発病果や花弁は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で処分する。
・発生初期に、フルピカフロアブル(F:9)等を散布する。
- 備 考 ・[灰色かび病薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターHPに掲載中。

5 トマト コナジラミ類

- 発生予想 ・発生量：**やや多い**
- 根 拠 ・現在の発生量は平年並(平年比91%：ほ場率、平年比133%：株率)。(±)
・向こう1か月の平均気温は高く、日照時間は少ない見込み。(±～+)
- 対 策 ・施設内に黄色粘着板を設置し、コナジラミ類の誘殺を認めたらディアナSC(I:5)等を散布するなど、早期防除に努める。
・コナジラミ類は黄化葉巻病(TYLCV)や黄化病(ToCV)を媒介する。これらの発病株は伝染源となるので、速やかに抜き取り、施設外で処分する。耐病性品種であっても、感染すると伝染源となるので、感受性品種と同様に適正な防除をする。
- 備 考 ・[防除のポイントNo.22](#)、[タバココナジラミ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

6 たまねぎ べと病

- (1) 発生予想 ・発生量： **やや多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並（平年比 216%：ほ場率）。(±)
・向こう1か月の降水量は多く、日照時間は少ない見込み。(＋)
- (3) 対 策 ・雨水が停滞すると発生しやすくなるので、ほ場の排水をよくする。
・発病株は伝染源となるので、速やかに抜き取り、ほ場外で処分する。
・予防を主体に、ジマンダイセン水和剤（F:M3）等を散布する。発生が見られる場合は、ホライズンドライフロアブル（F:11、F:27）等を散布する。
・[植物防疫速報 No. 13](#) を当センターHP に掲載中。

7 きく ハダニ類

- (1) 発生予想 ・発生量： **多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量はやや多い（平年比 155%：ほ場率、平年比 64%：株率）。(±～＋)
・向こう1か月の平均気温は高く、日照時間は少ない見込み。(±～＋)
- (3) 対 策 ・ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
・葉裏をよく観察し、発生が認められたら気門封鎖剤やトクチオン乳剤（I:1）等を下葉や葉裏にもよくかかるように散布する。

8 その他の病害虫

| 作物名 | 病害虫名 | 現況 | 発生予想 | 作物名 | 病害虫名 | 現況 | 発生予想 |
|-----|-------|-----|------------|------|--------|-----|------------|
| いちご | うどんこ病 | やや少 | 平年並 | きゅうり | うどんこ病 | 平年並 | やや多 |
| | ハダニ類 | やや少 | 平年並 | | べと病 | やや多 | 多 |
| トマト | うどんこ病 | 多 | 多 | | コナジラミ類 | 多 | 多 |
| きく | 白さび病 | 少 | やや少 | | アザミウマ類 | 少 | やや少 |

春の病害虫防除対策

○麦類 赤かび病

赤かび病は予防が重要です。出穂や開花の状況をよく観察して、適期に赤かび病防除を行いましょう。

○いちご親株床

親株に病害虫の発生がないかよく確認してから定植しましょう。また、本ぼと親株床の管理作業を分け、本ぼから親株床への病害虫の持ち込みを避けましょう。

○なし 黒星病

一次伝染時期となるりん片脱落期から開花後は最重要防除期です。本年の幸水の開花は平年より8日早く、昨年より6日早い予想となっています。果そう基部病斑（芽基部病斑）の摘み取りを徹底し、2分咲きから落花直後に予防効果の高いDMI剤を散布しましょう。[ナシ黒星病菌の簡易薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

農薬は適正に使用しましょう

- 農薬を適正に管理し、容器のラベルをよく読み、農薬による事故等の発生を防止しましょう。
- RACコードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。
- 花粉媒介昆虫のミツバチ、マルハナバチや天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。

1か月気象予報（予報期間3月18日から4月17日 3月16日気象庁発表）

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。降水量は、多い確率50%です。日照時間は、少ない確率50%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

| 項目 | 低い（少ない） | 平年並 | 高い（多い） |
|------|------------|-----|------------|
| 気温 | 10% | 10% | 80% |
| 降水量 | 20% | 30% | 50% |
| 日照時間 | 50% | 30% | 20% |

詳しくは農業環境指導センター（Tel 028-626-3086）までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「[栃木県農政部 \(@tochigi_nousei\)](#)」、農業環境指導センターホームページ（<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>）でもご覧になれます。

